

北の志づめ

第228号

令和7年1月



千支鈴(巳)

開拓の群像

アイヌの人々と生きる 太田 紋助

合田 一道氏

円山地域の生物

野鳥観察の事始め

円山は冬の鳥たちも素晴らしい！

北海道大学大学院理学研究院
教授 高木 昌興氏

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>



北の志づめ 第228号 令和7年1月1日発行

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474

電話／011-611-0261 FAX／011-611-0264 北海道神宮社務所

<http://www.hokkaidojingu.or.jp/>



ご挨拶

宮司 間島 誉史秀



明けましておめでとうございます。

皇紀二千六百八十五年、令和七年乙巳の新春を迎えるにあたり、皇室の弥栄とわが国の安泰、ご崇敬の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年は、明治天皇様の御増祀六十年という大きな節目の年を迎え、崇敬者多数ご参列のもと、式年の大祭を厳肅裡に斎行致しましたが、皆様と共に、明治天皇様が北海道開拓にお寄せになられました聖恩に感謝申し上げ、道民の安寧と北海道の今後更なる発展と隆昌を、ご祈念申し上げます。恊に、ご同慶の至りに存じます。併せまして、式年に際し、計画を致しました記念の諸事業も、滞りなく完了することができました。ご奉賛を頂きました奉賛会をはじめ、崇敬奉賛各団体の皆様に、謹んで感謝と御礼を申し上げます。ご奉賛を頂きました奉賛会

本年の北海道神宮は、平年でありまして、特別な祭事・行事の予定はございませんが、四年後の令和十二年九月には、御創祀より百六十年の式年祭を迎えますので、鋭意、計画と準備を執り進めて参る所存でございます。皆様におかれましては、今後とも格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本年は乙巳の年であります。乙巳は新たな芽が柔らかに伸び始める様子を、「巳」は物事が成熟し、次の変化へ進む転換期を表すといわれております。近年、自然災害の頻発・劇甚化、国際紛争の激化等により国の内外を問わず、社会・経済情勢ともに、混乱の二途を辿っておりますが、乙巳の年である今年こそは、混乱の根幹をなす諸問題を解決に導くための、新たな道を見いだそうとする気運が高まり、我が国はもとより、世界の安寧秩序が一日も早く齎されることを願ってやみません。

当神宮では本年も、祭祀の厳修に努め、日々の御祭儀に於いて、我が国と世界の安寧と繁栄をお祈り致して参る所存でございます。

結びに、御祭神のご加護により、新しき年が、ご崇敬の皆様にとりまして、希望と喜びに満ちた佳き年となりますことを心より祈念致しまして、新年のご挨拶と致します。

明治天皇御増祀六十年

式年祭

十月五日(土)、明治天皇御増祀六十年式年祭を斎行いたしました。祭典は、昭和三十九年の御増祀の際、御祭神三柱の大前に事の由を告げ奉る御祭事の斎行が午後一時であつたことに因み、午後一時の斎行となりました。

宮司・献幣使以下諸員が、神社本庁よりの幣帛を納めた辛櫃を先頭に祓いを受けた後、本殿へと参進しました。祭典では、一拝、開

扉、献饌、宮司の祝詞奏上の後、献幣使として田中恆清神社本庁総長が御神前に祭詞を奏上しました。引き続き、平成二十四年の明治天皇百年式年祭の記念事業として作曲・作舞された神楽「黎北の祈り」が奉奏され、明治天皇御製「あさみどり澄み渡りたる大空の廣きをおのが心ともがな」が、吟詠講日村殉講長により献詠されました。宮司以下祭員、献幣使が玉串を奉り拝礼。参列者が順次玉串拝礼を行った後、撤幣、撤饌、垂簾を行い、宮司の一拝をもって祭典は終了となりました。



献饌



祭詞を受ける献幣使



神楽「黎北の祈り」



宮司挨拶



薩摩琵琶の演奏



日村講長による御製奉唱

直会は、会場を札幌グランドホテルに移し、開催されました。直会に先立ち、奉祝演奏として、明治天皇がお好みになられたといわれる薩摩琵琶により「蓬萊山古歌」が、金子岳櫻氏により演奏されました。直会では、宮司挨拶の後、田中恆清神社本庁総長、九條道成明治神宮宮司、濱坂剛北海道神宮奉賛会会長（北海道神社庁神社総代会会長、北海道商工会議所連合会会頭）の乾杯の発声のもと、祝宴が始まりました。祝宴は、終始和やかに進み、芦原高穂北海道神社庁庁長の発声による万歳三唱の後、閉宴となりました。

参列者には記念品として、神前にも献じられた明治天皇ゆかりの開拓使麦酒と、グラス、記念冊子『明治天皇御増祀と北海道神宮への改称』、『明治天皇と北海道』が贈呈されました。



開拓使麦酒とグラス

記念事業

北海道神宮では明治天皇御増祀六十年の節目の年を迎えるにあたり、これを奉祝し記念事業を行いました。

◆行事関係

【奉祝奉納舞台】

九月二十九日（日）、三条神楽やジャズコンサート、ヨサコイソーランなどを六団体



明治天皇と北海道



明治天皇御増祀と北海道神宮への改称

により神前にご奉納いただきました。当日は多くの参拝者が陪観し、素晴らしい演奏・演舞に拍手を送っていました。



三条神楽（舞楽会）



ジャズコンサート

【特別展】

十月一日（火）から十月十五日（火）の期間、北海道神宮慶陽館二階において、明治天皇が実際にお使いになった御料をはじめ、北海道神宮が所蔵するおゆかりの品を展示する特別展を開催いたしました。期間中約二千名が来場され、普段目にするこののない品々を興味深くご覧になっていました。



特別展

【特別パネル展】

神門内西回廊において、「明治天皇と北海道」をテーマにしたパネル展を開催いたしました。北海道の開拓に御心をお寄せにられました明治天皇の御生涯や御

事績、二度の北海道御巡幸についてなどをまとめたパネルを展示し、ご参拝の皆様にご覧いただきました。



特別パネル展

◆祭器具関係

【高坏新調】

御神前に神饌をお供えする際に、神饌をお乗せする高坏を新調いたしました。



高坏

◆境内整備関係

境内の保全や、ご参拝の皆様の安全・快適の為の諸工事等を行いました。

- ・御本殿御屋根並びに各施設屋根の調査
- ・御本殿並びに各施設の耐震診断
- ・正参道改修工事
- ・教化施設（剣道場養心館、ボーイスカウト研修会館）の屋根葺替え・内装改装工事
- ・境内外灯並びに社務所照明のLED化
- ・社務所内装改装工事
- ・社務所配管等更新工事



養心館

特 集
だんげれ／北海道
開拓の群像特集
 合田 一道

歴史から見えるもの⁶⁹

アイヌの人々と生きる 太田 紋助



太田紋助翁命墓碑

アイヌ民族の中に、実行力のある素晴らしい人物がいた―。そんな話をしましょう。

厚岸の国泰寺は、蝦夷三官寺の一つと
 うたわれる名寺ですが、昔、ここに太田
 紋助という若い寺男がいて、かいがいしく働いていました。でも近くに住む人たちは、紋助を半ば蔑みの目で見ていま

す。風貌が少し違うからです。

実は紋助の父は南部大畑（後の青森県大畑町）出身で、厚岸場所の請負人のもとで番人を務めるうち、土地のアイヌ女性と結ばれ、生まれたのが紋助なのです。

紋助は物心がつくころ父は亡くなり、母親の手一つで育てられます。国泰寺の住職、香山聞禅が見かねて紋助を寺に引き取り、読み書き、算盤だけでなく、農業も教えたので、何でもこなす立派な若者に成長しました。慶応三年（一八六七）、紋助は二三歳の時、同族の女性と結婚します。

明治二年（一八六九）、維新による変革で、北海道は各藩の分割支配になり、厚岸、釧路の両郡は佐賀藩の支配と定められ、開拓移民がどつとやって来ました。紋助は、香山住職の推挙により開墾掛雇になり、移民たちの先頭に立って開

墾に精出したので、佐賀藩は紋助に金二封を贈り、感謝の気持ちを伝えました。働き者の紋助は仕事のかたわら、自分に貸し下げられた土地約三〇アールを、自力で開墾して畑地にしました。

開拓使が設置されて、紋助は雇の職を解かれますが、明治十一年（一八七八）、開拓使の「牧畜取扱雇」になり、「四等牧畜取扱」に昇進します。念願の馬の飼育担当です。

ところが根室牧場が新設され、これまで厚岸で育成していた馬はすべて根室へ移されることになります。紋助も一緒に移るよう勧められますが、この地を離れることが出来ず、退職して「馬追い渡世」と呼ばれる馬を扱う仕事を始めます。開拓使はその決断に感心し、雄一頭、雌九頭の馬を紋助に払い下げて応援しました。

紋助はいつも同族であるアイヌ民族

の生活向上に心を砕いていました。コンブ採集船の建造計画が明らかになると、私費でツクシコイという場所にコンブ干し場を設置しようと同族に呼びかけ、みんなの力で干し場を完成させました。

紋助は開拓使を辞めた後も、未開地の払い下げを受けて開墾を続けますが、それを自分の所有にせず、アイヌ民族三七人の共同経営にして、暮らしを支えるよう計らいました。

明治一八年（一八八五）、紋助は根室から汽船で上京し、厚岸地方で事業を営む大物実業家と会って話を聞いた後、駒場農学校を訪れて、裸麦、小麦などの栽培法を教えられ、種子を持ち帰ります。その種子をアイヌ民族の共同経営による農地に蒔き、利益を生活改善の資金にするなど、同族のために意を注ぎました。

明治三年（一八九〇）、厚岸原野に

屯田兵村の建設計画が決まると、現地を歩いて適地を定めます。

屯田兵とその家族が入植するこの地は、紋助の姓を取って「太田兵村」と名付けられます。



太田兵村

紋助の公共に尽くした事業は数多くありますが、ことに教育に熱心でした。そのころ土地所有という概念を持たないアイヌ民族が、和人の口車に乗せられて土地を奪われる紛争が続発していました。無学ゆえに騙される同族を何とかして救いたい、そのためにも学ぶ場が大事と訴え、学校を建設する努力も続けました。

明治二五年（一八九二）四月、紋助は仕事で函館に出張中、突然、病氣にかかり、亡くなります。四七歳。あまりにも短すぎる生涯でした。だがその名は厚岸町字太田、太田東、南、北、西、太田広陽などの地名として現在も生き続いています。

◆プロフィール◆

昭和九年（一九三四）、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。『定山坊行方不明の謎』で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』『人間登場―北の歴史を彩る』『大君の刀』など。

平成二十年一月一日に発刊された、北の志づめ第百六十号に掲載された開道百四十年特集「がんばれ！北海道―歴史から見えるもの①」から始まった合田一道先生によります当連載は、今号を持ちまして終了となります。合田先生におかれましては、十六年に亘ってのご連載、恊にありがとうございました。

野鳥観察の事始め

円山は冬の鳥たちも素晴らしい！

北海道大学大学院理学研究院

教授 高木 昌興

森の木々は落葉が進んでいます。円山を代表する樹の1つはカツラです。黄色に変わった葉からはほんのりと甘い香りが漂います。ツタウルシの赤色の葉は特に鮮やか、カラマツの林床は黄土色の絨毯を敷き詰めたようです。一方で冬の風雪から神宮を守る植栽されたスギは、密生した針葉は深い緑色を湛えています。サルナシ(コクワ)やヤマブドウ、マタビもたわわに実をつけています。大きな樹に寄生するヤドリギの赤や黄色の果実も落葉の木々に少しだけ彩りを添えます。忘れてはならないのはナナカマドです。ナナカマドの果実は豊作と凶作が明瞭で、今年はこれまでの状況を見ると、かなりの豊作です。またシラカンバも豊作のようで、ハラハラと舞う翼のついた小さな種子が幾重にも重なった様子を観察

できます。

冬の鳥たちにとって大切なのは食べ物です。深い雪で覆われる、寒い円山では、虫たちは影を潜めじつと雪の下や樹皮の隙間などに隠れています。しかし上述のように果実や種子をつける樹はたくさんあります。冬まで残る果実や種子は厳しい冬を乗り切る鳥たちにとって欠かせない餌になります。今年の円山には多くの冬鳥たちが来る可能性が高いと思われます。冬鳥を観察する千載一遇のチャンスに備えておきましょう。

そこで冬の円山で出会える鳥たちを紹介していきます。ナナカマドの実を食べるのを見かけることが多い5種です。まずはツグミ(写真1)です。茶色い背中と黒い筋の入った胸がシックな色合いで比較的大きく力強い印象の鳥です。キュイツ、キュイツと鳴きます。ツグミによく似たオレン



【写真1】 ツグミ 全長24cm
ナナカマドの果実がツグミの命を支える

かけることが多い5種です。まずはツグミ(写真1)です。茶色い背中と黒い筋の入った胸がシックな色合いで比較的大きく力強い印象の鳥です。キュイツ、

ジ色味が強いハチジョウツグミ(写真2)は少し珍しい種です。ツグミ一〇〇羽に1羽くらいの割合で見られます。両種ともに朝早く、円山の



【写真2】 ハチジョウツグミ 全長24cm
ズミの果実をついばむ



【写真3】 キレンジャク 全長19-20cm
尾の先端が黄色、翼の羽の先端は複雑で美しい



【写真4】 ヒレンジャク 全長17-18cm
尾の先端が赤色、キレンジャクより少し小さい。惚れ惚れする美しさ

す。キレンジャク(写真3)とヒレンジャク(写真4)は札幌の皆さんにはお馴染みかもしれません



【写真6】 ベニヒワ 全長13-14cm
雪景色に赤い羽がことさらに映える

リリリと細い声を出しながら行動しますが、ヒレンジャクはその中にヒイという声を交えます。ウソは全身が灰色と黒のシックな色合いで頬が赤いとても美しい姿をしています。声も美しく、フィフィという人の口笛のように鳴きます。



【写真7】 ハギマシコ 全長16cm
地上に落下した翼果が嘴に付いている

超える群れが観察されることがあります。最後にイスカです。イスカの上下の嘴は合わさらず、交差しています(写真8)。その嘴を半開きにして松ぼっくりの間に押し込み、閉じるタイミングでマツの種をうまく引き出します。オスは赤色、メスは



【写真8】 イスカ 全長16-17cm
互い違いになっている嘴に注目

黄色と考えられています。キョッキョツと2声で鳴きながら飛ぶので鳴き声でその存在がわかります。

円山の野鳥観察の真骨頂は冬！と私は思います。春から鍛えてきた野鳥観察力を発揮して楽しんでください。

尾の先端の色が見えなくとも鳴き声を聞けばどちらかを区別することができま



【写真5】 マヒワ 全長13-14cm
シラカンバの翼果を挟み込んだたわわな果鱗をついばむ

ます。冬の間中、円山の稜線近くに生息しますが、ナナカマドの実が豊作の時には円山の麓でも数多く観察できます。橙色が目立つアトリもナナカマドの実を盛んに食べます。マヒワ(写真5)は円山の常連で、数十羽から数百羽の群れで行動することが多く、シラカンバの種子を一心不乱に食べます。黒い頭と顔から喉の黄色が鮮やかです。ベニヒワ(写真6)はマヒワの群れに混ざっていますが、あまり数は多くありません。白色に褐色の筋模様で頭には赤いベレー帽をかぶったように見え美しいです。ハギマシコ(写真7)は全身紫色がかつた褐色でエレガントな出立ちです。二〇〇羽を

社頭風景

九月～十一月

御鎮斎記念祭

明治二年に明治天皇の思し召しにより北海道の開拓・発展の守護神として大國魂神・大那牟遲神・少彦名神の三神を祭神とする神社の創建が決定され、東京都宝田町（現在の皇居外苑）の神祇官にて「北海道鎮座神祭」が斎行されたことが北海道神宮の創祀となります。これを記念して、九月一日（日）午前十時より御鎮斎記念祭を斎

行しました。

祭典では宮司による祝詞奏上の後、神楽「黎北の祈り」を奉奏いたしました。

祭典終了後、北海道神宮に対して篤志の真心をご奉賛いただきました方の表彰が執り行われました。

また、同日午後四時からは北海道神宮舞楽会による「三条神楽」が奉納され、参拝者には舞人により餅が配られました。



玉串を奉り拝礼



神楽「黎北の祈り」



餅を配る三条神楽の舞人

神嘗奉祝祭並びに年番引継祭斎行

神嘗祭とは、その年に収穫された我々日本人の主食でもある「お米」を、伊勢の神宮において大神様に奉り召し上がっていただく祭典です。北海道神宮の神饌田で収穫された稲穂も、このお祭りにお供え頂けるようお送りしております。伊勢の神宮では年間で一十六百六百余りある祭事の中、最も重要とされている祭事とされています。

年番引継祭では、第十八回山祭典区三上恒講長より敬神講社旗が返還され、次年度年番となる第一本府祭典区亀畑俊宏講長に間島宮司より授与されました。祭典終了後、本殿にて前年番への感謝状と記念品の贈呈に引き続き、新年番の講長・副講長への委嘱状が手渡されました。その後、参集殿にて新旧年番による引継式が行われました。これにより令和七年度の札幌まつりが本格的に始動することになります。



敬神講社旗授与



神楽「浦安の舞」



年番引継式

奉納品並びに奉納者ご紹介

令和五年九月より令和六年八月までの間、篤志の真心をご奉賛頂きました皆様をご紹介します。誠に有難うございました。（敬称略・順不同）

川原 邦子	二百万円
山田 宗代	十万円
能登 創大	十万円
熊谷 卓司・美恵	十万円
医療法人恒仁会 理事長 熊谷 卓司	十万円
下坂 彩	十万円
梅田 壽子	絵画「流鏑馬と超古代文字、カタカムナ」

新年番講長・副講長ご紹介

令和七年度は第一本府祭典区が敬神講社年番となり、例祭の渡御奉仕を頂きます。第一本府祭典区の代表委員長並びに代表委員は次の通りです。（敬称略）



第一本府祭典区代表委員長
敬神講社 講長
亀畑 俊宏



第一本府祭典区代表委員
敬神講社 副講長
戸澤 眞



第一本府祭典区代表委員
敬神講社 副講長
佐藤 雅則



第一本府祭典区代表委員
敬神講社 副講長
小六 弘朗

神社本庁統理賞



札幌市立栄南中学校 2年 鶴田 惺那

明治天皇御増祀六十年記念特別賞



札幌市立資生館小学校 5年 縄乃々香

北海道神宮宮司賞



札幌市立太平中学校 2年 岡 奈波穂

北海道神宮宮司賞



札幌市立桑園小学校 6年 三浦 諒子

北海道新聞社賞



札幌市立幌東小学校 4年 小笠原 結

北海道新聞社賞



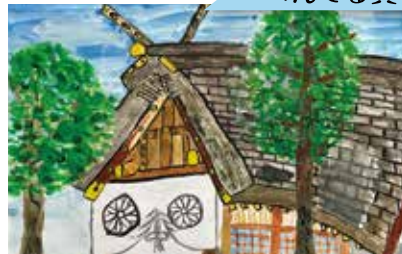
札幌市立共栄小学校 1年 二木 啓輔

ぺんてる賞



札幌市立平岡公園小学校 5年 たけなか めぐみ

ぺんてる賞



札幌市立琴似小学校 3年 小西 結月

ぺんてる賞



西野札幌幼稚園 5歳 浜田 佳音



写生大会

明治天皇御増祀六十年奉祝
第五十四回写生大会

九月八日（日）に写生大会が行われ、百九十一一点の作品が応募されました。十月十四日（月・祝）には午後二時より北海道神宮参集殿で入賞作品の表彰式が行われました。応募作品は十月一日（火）より十一月四日（月）まで東回廊で展示されました。

受賞者の方々をご紹介します。（敬称略）

《神社本庁統理賞》 1点

《明治天皇御増祀六十年記念特別賞》 1点
札幌市立資生館小学校 五年 縄 乃々香

《北海道神宮宮司賞》 2点

《北海道新聞社賞》2点

《ぺんてる賞》3点

《金賞》8点

札札札
 幌幌幌
 市市市
 立立立
 桑荣中
 園北央
 小小小
 学学学
 校校校
 三四年五年
 三窪井
 浦田上
 嘉侑
 乃莉椿

〈銀賞〉 8点

札札札札札札札札
 幌幌幌幌幌幌幌幌
 宮の立立立立立立
 沢立立立立立立
 雲宮寒の野野野
 母西森幌中央
 保小小小小小
 園校校校校校校
 四二三四五六二
 歳年年年年年年
 深中山大古木板瀧
 澤島中溝川田倉
 詩紀千 楓有恵す
 華路航航香美き

山岸和子
 後藤愛子
 時松明
 加藤穹

〈入選〉 39 点

札幌市立北光小学校
札幌市立宮の森小学校
札幌市立桑園小学校
札幌市立元町北小学校
札幌市立東橋小学校
札幌市立新札幌わかば小学校
札幌市立札幌西小学校
札幌市立北野台小学校
札幌市立発寒西小学校
札幌市立発寒西小学校
札幌市立本郷小学校
札幌市立発寒西小学校
認定こども園ふしこ幼稚園

五五一一二二三三四四五五
歳歳年年年年年年年年年
坂梅中清吉た村小劉工三三
下森島水川な上原 藤浦箇
べゆ
心天凜乃 さず悠千な萌葉
桃望咲愛凜らは誠愛さ花月

[illegible][illegible]

第六十六回 献菓祭

十月三十日(水)午前十一時、第六十六回献菓祭が北海道神宮銘菓奉献会会長長沼昭夫氏を始めとする会員の皆様の参列のもと斎行され、御神前には銘菓奉献会会員により全道各地の銘菓が神前に捧げられました。神門内テントにも献じられ

た銘菓の数々が十月三十日(水)～十一月三日(日)の期間展示されました。
また、十一月三日(日)には神門内でガールスカウト北海道第八団とボーイスカウト札幌第一団カブスカウト隊による野点が行われ、銘菓奉献会会員よりご提供いただいたお菓子と共にお茶を提供していました。

第六十六回北海道神宮銘菓奉献会「献菓祭」に奉納頂きました皆様方をご紹介致します。数々のご奉納ありがとうございました。(敬称略・順不同)

《所在》	《奉献菓名》	《会社名》	《代表者名》
札幌市	くず餅	(株)一久 もち処 一久大福堂	久木 利弘
留萌市	にしんパイ	留萌 一久庵	高田 英雄
稚内市	流水まんじゅう	(有)御菓子司小鹿	小鹿 卓司
伊達市	ようかん	(有)菓子処久保	久保 武士
北見市	ほっちゃれ	(株)菓子處大丸	中村 寿志
旭川市	中華まんじゅう「まご焼き」	菓子処まるきた(有)きたぐち	北口 潤
札幌市	小倉もなか	菓子処みつや	今野 一
札幌市	菓子の樹通り	(株)菓子の樹	田中 英雄
札幌市	十勝しぐれ田舎しるこ	(株)川西グレイスフーズ	川西 常夫
札幌市	札幌農学校	(株)きのとや	長沼 昭夫
八雲町	北海道名物 木彫り熊モナカ	(有)くら屋菓子舗	倉地 勝美
帯広市	くらんじゅ	(株)克蘭ベリー	水戸部 公平
江差町	五勝手屋羊かん	(株)五勝手屋本舗	小笠原 敏文
函館市	函館スーシユカ	(株)五島軒	若山 豪
札幌市	蜂蜜キャラメルワッフルダンク・ウ!	(株)三八	小林 久一

旭川市	菓子博限定 かりんとう	三葉製菓(株) 北かり	水上 崇
札幌市	焼菓子詰合	(有)シャトレース	中川 仁
札幌市	くるみとレーズン	(株)シャルロット	吉本 晋治
札幌市	白松がモナカ	(株)白松がモナカ本舗	白松 一郎
木古内町	孝行餅	(有)末廣庵	竹田 光伸
北斗市	上磯チヨコ	(有)末廣軒	佐々木 博史
北見市	赤いサイロ	(株)清月	渡辺 主人
札幌市	山親爺	千秋庵製菓(株)	中西 克彦
紋別市	紋太くん 塩バターどら焼き	高砂屋菓子舗	渡邊 孝博
帯広市	そばやき	竹屋製菓(株)	鈴木 培弘
旭川市	き花	(株)壺屋絵本店	村本 暁宣
せたな町	親子熊羊羹	中栄菓子舗	中澤 利彦
小樽市	十勝金時甘納豆	中ノ目製菓(株)	中ノ目 孝道
小樽市	石倉くるみ餅	(株)新倉屋	新倉 正三
函館市	ロマネスク函館アソート	(株)はこだて柳屋	若杉 充宏
三笠市	フィナンシェ	フィナンシェ専門店 Rire-Sourire	上西 歩夢
室蘭市	バターせんべい	(株)富留屋	古谷 公億
札幌市	手焼きどら焼	あんやの豆とお菓子 峰旬	川西 文男
砂川市	夕張メロンピュアゼリー	(株)ホリ	堀 太一
札幌市	ショコラブラウニー	(株)マサル	古谷 健
札幌市	お供餅	(株)美好屋	竹林 和俊
札幌市	北海道乾酪ブラウニー	みれい菓(株)	小田 和也
新ひだか町	元祖三石羊羹詰合	(有)八木菓子舗	八木 一洋
帯広市	コメビス	(株)柳月	田村 英祐
留萌市	萌える海	(有)ルモンド	松村 泰年
帯広市	マルセイバターケーキ	(株)六花亭	小田 文英
洞爺湖町	わかさいも	(株)わかさいも本舗	若狭 洋市
札幌市	サチ	(株)わらく堂	関根 健右



北海道神宮銘菓奉献会の皆様



野点



奉献された全道の銘菓



豊栄の舞

穂多木神社本遷座祭

十月十五日

(火)午後四時、境内社の穂多木神社に御霊を遷す本遷座祭を、北海道拓殖銀行の旧職員の方である拓友会の檜森聖一会長以下関係者参列のもと厳かに斎行されました。穂多木神社は北海道拓殖銀行に永年勤務功労のあった物故役職員を祀る神社で、落雪により鯉木が破損し御屋根の修繕工事をを行う為、三月十日(日)に御霊を開拓神社に遷座していただきました。



祝詞奏上

物故役職員を祀る神社で、落雪により鯉木が破損し御屋根の修繕工事をを行う為、三月十日(日)に御霊を開拓神社に遷座していただきました。



修理された穂多木神社

抜穂祭

上川郡東川町にある北海道神宮神饌田において、九月十一日(水)午後一時より抜穂祭が斎行されました。間島宮司が斎主となり、田長を北海道農業協同組合中央会代表理事会長樽井功氏、田長介助役を北海道農業協同組合中央会協同活動推進室長高橋信行氏、耕作長を東川町農業協同組合代表理事組合長牧清隆氏がそれぞれ務めました。

耕作者である三田常男氏を始め、東川町の関係者、札幌からの抜穂祭奉仕団を含め百名以上が参列し、神々の恵みへの感謝の誠心を捧げ、北海道の農業の更なる発展を祈りました。



早乙女

新嘗祭並びに新穀勤労感謝祭

十一月二十三日(土・祝)午前十時、神代より今に伝わる、我が国の重要な神事である新嘗祭並びに新穀勤労感謝祭が、一二三〇名の参列のもと、海川山野の幸を捧げ、北海道神宮神饌田奉斎会を始め、農業・商工業・漁業・林業・酒造の各団体代表者が幣帛を献じ、厳肅裡に斎行されました。

宮司の祝詞奏上の後、北海道農業協同組合中央会代表理事会長樽井功氏が豊作感謝の祭詞を奏上しました。神



浦安の舞



神門前の船盛



お赤飯の啓蒙活動

前は北海道神宮神饌田より収穫された「ゆめぴりか」十俵をはじめ、多くの方々より奉納されました品々で埋め尽くされ、JAさっぽろと北海道神宮校祇講によって奉納された野菜各種の船盛が神前と神門前に飾られました。

また、本年は参道において一般社団法人赤飯文化啓発協会により日本の食文化におけるお赤飯及び関連文化の啓蒙活動が行われました。

明治天皇御増祀六十年奉祝 第四十六回

北海道神宮少年剣道大会

九月二十三日(月)、北海道神宮剣道大会が行われました。結果は次の通りです。

3 位	準優勝	優勝	出場数	
新川少年剣道クラブ	札苗剣心会	札幌月寒剣道	48 チーム	小学生団体
札幌前田少年剣道	斎藤結夢	中島優月	44 名	小学生個人
鈴木若菜	真駒内少年剣道会	若草スポーツ少年剣道部	39 チーム	中学生団体
札幌前田少年剣道	札幌月寒剣道	玉井梨瑚	43 名	中学生個人
鈴木結心	船木美空	植根華絆		



試合する少年剣士達

『興風』十一巻刊行

令和六年十月五日に明治天皇御増祀六十年記念『興風』十一巻が刊行されました。『興風』は札幌興風会会員の歌集で、一巻は昭和五十一年に刊行されました。

札幌興風会は、明治四十年四月、当時の札幌神社(現北海道神宮)宮司額賀大直の頃に始められた歌会で、札幌の短歌結社の草分け的存在です。

毎月二十日の旬祭に合わせて献詠祭を斎行し、引き続き月例の歌会を行っています。毎月会報「和歌新萬葉」を発行しています。



『興風』十一巻

北海道神宮頓宮

奉祝明治天皇御増祀六十年
頓宮例祭神輿渡御

昨年、神輿会北海陸から北海道神宮頓宮に大神輿が奉納され、同時に北海道神宮神輿会頓宮が発足し、この奉納された神輿が頓宮例祭の日に初めて東地区の街をまわりました。

本年は北海道神宮にとりまして、明治天皇が御増祀されて丁度六十年の節目の年を迎えておりますので、神輿会頓宮の本年の神輿渡御の順路は明治天皇のゆかりの地でもある、旧開拓使麦酒醸造所、今のサッポロファクトリーに神輿を入れる事が、早々に話し合われていま



創成川通の渡御

した。明治十四年八月三十一日、明治天皇が開拓使麦酒醸造所に御巡幸なされた際には、麦酒を召し上がられ、もう一杯御所望遊ばされたといわれています。

九月十五日(日)、午前十一時の例祭斎行後に御霊代奉遷が行われ、生憎の雨模様でしたが、木遣り、纏を先導に、約三三〇名の担ぎ手により大神輿の宮出しとなりました。本年は北海道新聞社の新社屋も完成され、北海道新聞社の社員四〇名も神輿担ぎに参加されていまして、新社屋に神輿が立ち寄り、北一条通りを東進して東七丁目を北進、北三条通りからサッポロファクトリー煙突広場に入り駐輿祭を行いました。又、駐輿祭の前に煙突広場



サッポロファクトリーでの御駐輿



海響による演舞

では、ヨサコイチーム「海響」の演舞が行われており、大勢の観客の歓声の中を大神輿が入って行きました。が、不思議なことにそれまで降っていた雨も嘘のように止み、駐輿祭の後に北札鷺土木組合の梯子乗りのお披露目も行われ、神輿渡御に花を添えて下さいました。

サッポロファクトリーを後にして、大神輿は二条市場に入りましたが、ここでは下町ランウェイ実行委員会の手配により、南二条通りの一部が歩行者天国となっており、そこでも大勢の方々に迎えられ大きな賑わいとなりました。いよいよ宮入りとなりますと、担ぎ手も参拝者も一体になり境内が熱気に溢れ大神輿が収まり、厳かな還輿祭へと雰囲気に移り変わり、本年の神輿渡御が無事に終了いたしました。



二条市場での纏

奉賛会だより

年頭の辞

北海道神宮奉賛会

会長 岩田 圭剛



明けましておめでとうございます。令和七年の新春を迎えるにあたり、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、国内で自然災害に見舞われた地域があり、また海外でも紛争が続くなど、私たちを取り巻く環境は依然として平穏とは言い難い状況でした。そうした中で、日本人選手の活躍によって明るい話題をもたらしてくれたのがパリオリンピックでした。特に北海道勢の目覚ましい活躍は、同じ北海道民として私たちに大きな勇気と活力を与えてくれました。

また、北海道経済に目を向けますと、観光業の回復が期待される一年でした。コロナ禍からの復興が進み、国内外からの観光客が再び増加しつつあります。特に外国人観光客の増加が目立ち、北海道神宮においても境内において外国人観光客が多く見られました。

さらに昨年は、北海道神宮に明治天皇が御増祀されて六十年という節目の年でもありました。奉賛会として青少年の育成事業に奉賛し、剣道場「養心館」やボーイスカウト、ガールスカウトの活動拠点である「研修会館」の修繕を支援いたしました。今後も北海道神宮への奉賛事業を引き続き推進してまいります。

十月二十七日には、三十四名の会員の皆様にご参加いただき、境内清掃奉仕を実施することができました。ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。皆様のご崇敬の真心に、大神様もお喜びのことと拝察する次第です。

本年も、会員の皆様におかれましては、当会の事業に引き続きご支援とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。御祭神のご加護のもと、皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、年頭のご挨拶とさせていただきます。

◆新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。令和六年九月一日から十一月十五日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告致します。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。(敬称略・順不同)

新入会員のご紹介

真鍋 巧 後藤 偉和夫
大宮 俊輔 飯島 晃
野寺 博充 大刀 家齊
自由民主党道民会議議員会 河阪 明彦
藤本 千絵

協賛者のご紹介

◇五千元 (南)アップ・スタンダード
◇二千元 (南)北都エステート 山田 良治
宮地 宏

第三十七回 境内清掃奉仕

北海道神宮奉賛会の恒例行事であります、境内の清掃奉仕が十月二十七日(日)に三十四名の皆様の参加を頂き行われました。